

生殖テクノロジーとヘルスケアを考える研究会資料

2010年9月10,11日開催

中絶をめぐる女性活動家たちの実践と『健康』理念

水島 希 東京大学大学院情報学環特任助教

要旨 1970年代、アメリカで生じた Women's Health Movement は、現在も草の根の女性活動家を通じて女性の健康をめぐる女性を主軸にすえた視点を提供している。その根底には、70年代に女性活動家によって開発された月経吸引器 Del-Em とスペキュラムの使用や、闇中絶（当時禁止されていた人工妊娠中絶）サービスを提供してきた匿名グループ「ジェーン」の活動など、草の根の女性活動家たちの幅広い実践が大きな方向付けを行っている。一方で、日本においては、人工妊娠中絶が合法化されていたこともあり、中絶技術への女性活動家たちの関与は少ないと考えられている。しかしながら、中絶手術への同伴や、法外な金額を要求する中絶医への反対運動など、いくつかの実践は行われていた。本論文では、中絶をめぐる日米の法的状況の違いを背景に、1970年代以降、女性活動家たちが行ってきたさまざまな実践を概観し、そうした実践と相互関係をもって構築されてきた「女の健康」概念について検討する。ここから、女性を主軸にすえた「人工妊娠中絶」とはどのようなものか、女性を主軸にすえた中絶をめぐるヘルスケアの実践にはどのようなものがあるのかを考察する。